

組合総会 開かれる

2018年度組合総会が3月9日に組合結成の聖地であるKKRホテル金沢で開催された。総会成立の要件が確認されたあと、活動報告、および、会計報告が行われ、次いで次期執行委員が選出された。さらに2018年度の活動方針と予算案が承認され閉会。引き続いて懇親会が催された。

懇親会では退職された一ノ木進教授、加藤幸子講師、武野哲講師の送別も行われた。

2018年度執行委員

執行委員長 荒川 靖
書記長 高橋達雄
執行委員 井上裕子

副執行委員長 東 康彦
会計 松原京子
会計監査 林 敬

会計資料添付

2017年度北陸大学教職員組合決算報告書
(2017.2.25~2018.2.24)

収支計算書

I 収入の部	予算	決算
前年度より繰越	8,961,682 円	8,961,682 円
組合費	700,000 円	927,800 円
寄付	- 円	- 円
金利	- 円	19 円
行事収入	60,000 円	58,000 円
雑収入	- 円	- 円
合計	9,721,682 円	9,947,501 円

II 支出の部	予算	決算
事務用品費	50,000 円	- 円
郵便・通信費	50,000 円	6,685 円
コピー・印刷費	50,000 円	804 円
資料収集費	50,000 円	- 円
上部団体納入費	350,000 円	357,500 円
旅費等出張費	200,000 円	21,000 円
会議費	30,000 円	- 円
弁護士費用	200,000 円	- 円
振込費等会計処理費	20,000 円	6,264 円
慶弔費	200,000 円	70,000 円
行事費	200,000 円	187,576 円
予備費	300,000 円	- 円
合計	1,700,000 円	649,829 円

収支残高	9,297,672 円
------	-------------

貸借対照表

I 資産の部	
預金残高	8,646,429 円
(内訳)	
北陸銀行	14,845 円
郵貯銀行総合口座	35,735 円
通常貯蓄貯金	2,108,604 円
金沢信用金庫	82,445 円
郵便振替口座	6,404,800 円
現金残高	651,243 円
合計	9,297,672 円

II 負債の部	
借入金	- 円
合計	- 円

以上のように決算報告をいたします。

2018年 3月 5日

会計

松原京子



以上の決算は正確であることを証明します。

2018年 3月 5日

会計監査

林 敬



北陸大学教職員組合 2018年度 予算案

1. 予算編成基本方針

小倉理事長・学長体制による新しい大学運営の下、法人と本教職員組合とは、団体交渉や合意のプロセスを含め、健全なる関係を構築しているところである。しかしながら、本学の完全な正常化には道程がまだあり、本教職員組合は今後もその過程を厳しく見守る必要がある。また、昨年度からの4学部体制への改組に伴って、様々な教育改革が断行されている最中であり、労働条件を含む規定の変更も行われる予定である。

この状況にあつて、今期の予算は、次の事項に重きを置いて編成することとした。

(1) 収入の部に関しては、組合員の新規加入獲得に注力し、組合の勢力の拡大と財政的基盤の強化を図る。

(2) 支出の部については、より強い組合の実現を目指して組合員の団結を深めるための情報収集・教宣活動の強化を図り、組合活動の効率化のための諸態勢を整える。

その他、組合出動の危機に備えて経費の緊縮に努める。

2. 予算配分

収入の部 (単位円)		支出の部 (単位円)	
前期からの繰り越し	9,297,672	事務用品費	50,000
組合費	600,000	郵便・通信費	50,000
行事収入費	60,000	コピー・印刷費	50,000
合計	9,957,672	資料収集費	50,000
		上部団体納入費	350,000
		旅費等出張費	200,000
		会議費	30,000
		弁護士費用	200,000
		振込費等会計処理費	20,000
		慶弔費	200,000
		行事費	200,000
		予備費	300,000
		合計	1,700,000
収支残高		8,257,672	

荒川執行委員長の抱負

今年度で10期目の執行委員長となりました。組織には、意図のあるなしに関わらず、おかしな事や理不尽な事が付きものです。しかし誰もそれを指摘しなければ改善されません。もしも皆様が腑に落ちないような事項がありましたら、遠慮なしに組合執行委員にご相談ください。より良い大学と職場環境をつくるよう努力いたしますので、ご協力の程、よろしく願いいたします。

東副執行委員長の抱負

教職員組合の活動目的の1つは、教職員の本来の権利と人権を守り、働きやすい、「やりがいのある」職場環境に改善することであります。北陸大学の基幹学部である薬学部に勤めてから19年目になりますが、職場環境が健全であると明言できないと思っています。本学の健全化と発展のために活動していきたく思いますので、皆さま、ご支援とご賛同のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

高橋書記長の抱負

組合活動に参加してから3年目となりますが、年々、法人と教職員の信頼関係が崩れつつあるように感じております。法人は教職員一人ひとりの意見に耳を傾けるべきではないでしょうか。意見を述べる機会のない教職員は不平不満ばかりが募っていく…。この不健全な状況を打破するには我々の声を集約し、その声を届けていくしかないと考えております。皆様からのご意見を少しでも多く法人へ伝え、健全な職場環境の実現のために努力いたしますので、今後ご支援のほどよろしくお願いいたします。

あれから5年も経過したが・・・

2月26日は本学にとって歴史的な日、正常化運動により北元前理事長が退陣した日である。あれから5年の月日が流れた。本学は“正常化”を実現したのか。否、多くの教職員はそう感じていないだろう。その理由を2つ論じてみたい。

①前ニュース（第313号）で書いたように、賞与における人事考課について、「考課部分については自己点検表を学部長が評価し、それを基に副学長と理事長・学長が判断している。」と法人側は回答した。これは昨年、一昨年と同様である。そこで、人事考課が0ヵ月であった複数の教育職員が所属長である学部長に説明を求めたところ、次のようなことが分かった。

A 学部長：自己点検表の所属長記入欄にコメントのみを記述し、上申

B 学部長：5段階評価（S-A-B-C-D）し、S評価とD評価のみコメントを記述

C評価でもD評価でも0ヵ月

A 学部長が書いたコメントは、形を変えずに上申されたのか。はたまたどこかの段階でその内容がすり替えられたのか。何がどうなっているのか不明である。我々が年に数回しか顔を合わせない上の方々は、全教職員の仕事ぶりを正確に評価できるのだろうか。また、「C評価でもD評価でも人事考課は0ヵ月」という説明は納得できるものだろうか？考課による支給があった教職員でさえ「この支給率で妥当だったのか」「こんなに努力して仕事しているのだから本当はもっと高い考課であるべきだ」「提出しても適切に評価されているようでないならば、何のために提出しているのか」等の不満や憤りを感じても不思議ではない。その教職員は、やりきれない思いを抱えながら、次のように胸中を吐露している。「理事のメンバーがどのように評価したか。そこが知りたい。」

多くの教職員はこの意見に賛同するだろう。しかし、だんまりを決め込んでいる教職員は少なくない。個人的に不当な差別を受けていても、それを口外することでさらに理不尽な対応を受けるのではないかと恐れているからである。なお、一部の教職員にはフィードバックがあったそうだが、全教職員に対してはまだ実施されていない。なぜだろうか？組合は人事考課の拡幅に猛反対した。しかし、それは全く聞き入れられなかった。合理的で納得がいく説明がない以上、長年に渡り実施してきた人事考課は不適切であったと判断するしかない。

②昇任人事は適切に実施されているだろうか。この点にも疑いをもってしまう。退職者も増え、嫌がらせのように仕事量が増えている。しかし、人事考課では低く評価され、昇任もない。それ故、働いている割には達成感を味わった気がしない。しかも、その昇任の推薦に関して、業績はほとんど関係なく、北元前理事長時代と同様に上の意向を付

度する形で昇任候補者が決まっているのではないかと懸念される。極めて不当な昇任人事システムであり、これには異を唱えたい。また、①で示した不当な人事考課も含めて、これらは嫌がらせ・ハラスメントに匹敵すると言えるだろう。北元前理事長が退陣した理由の1つに、ハラスメントが挙げられる。数年前には、ハラスメントに関する研修会も本学で開催されたが、それは活かされていると言えるだろうか。

まだまだ理由はあるだろうが、これら2つは風通しの良さを感じない理由となっていると考えられる。不満が溜まれば溜まるほど、組合ニュースのボリュームは必然的に多くなる。組合員であろうがなかろうが、昨年冬季賞与後、訴えに来る教職員が増えているのも事実である。また、これは氷山の一角であると認識しなければならない。マグマのように溜まった不満がいつ爆発してもおかしくない状況である。

上の命令が絶対と受け止め、矛盾や不合理があっても任務を遂行し、他人にも強要する。上司の意向やしきたりに従い、感情とは裏腹に働く。ハラスメントは耐えるだけ。現場の意見は反映されない。果たしてこのような環境下で、本学教職員はやる気を保って仕事に邁進できるだろうか？ただ働く駒にすぎないのだろうか？

暴力事件をきっかけに隠ぺい体質が明るみになった日本相撲協会。もりかけ問題、公文書改ざん等で野党への防戦に追われる安倍政権。栄強化本部長のパワハラを認定した日本レスリング協会。矛盾や綻びはいずれ露呈するものである。

今年度新規採用の皆様へ

北陸大学へようこそ。本学の印象はいかがですか？緑に囲まれたキャンパスは一見平和で穏やかに見えますが、苦難の歴史が刻まれています。特に北元前理事長時代には多くの教育職員が他大学へ移りました。我々はこのことを「脱北」と呼んでいました。それほど多くの教職員が理不尽な扱いを受けていたのです。不当解雇問題、授業担当外し、「志」という名の賞与、事務職員の未払い残業代等、枚挙にいとまがありません。薬学部では、過去に入学定員460人という極端な増員や入試の全校指定校導入の時期がありました。これにより、高校生やその保護者ならびに高校教員の本学への信頼はガタ落ちし、今なおそれが尾を引いています。組合は、このようなトップダウン方式に強く抗議し、問題解決に向けて真摯に取り組んできました。詳細は北陸大学教職員組合ホームページ (<http://www.hussu.jpn.org>) をご覧ください。組合ニュースのバックナンバー、組合二十年史、組合活動内容や要求事項などが掲載されています。歴史は繰り返されると言いますが、そうならないためにも皆様のご加入を心よりお待ち申し上げます。

お問い合わせ先

薬学キャンパス：荒川・東・高橋・松原

太陽が丘キャンパス：井上